平成29年度第8回御船町議会定例会（12月会議） 議事日程（第3号）

平成29年12月19日

午前10時00分開会

1 議事日程

- 第 1 議案第51号 平成29年度御船町一般会計補正予算（第5号）について
- 第 2 議案第52号 平成29年度御船町国民健康保険事業特別会計補正予算（第3号）
について
- 第 3 議案第53号 平成29年度御船町介護保険事業特別会計補正予算（第3号）につ
いて
- 第 4 議案第54号 平成29年度御船町後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第2
号）について
- 第 5 議案第55号 平成29年度御船町緑の村運営事業特別会計補正予算（第3号）に
ついて
- 第 6 議案第56号 平成29年度公共下水道事業特別会計補正予算（第2号）について
- 第 7 議案第57号 平成29年度御船町情報通信基盤施設運営事業特別会計補正予算
（第2号）について
- 第 8 議案第58号 平成29年度御船町水道事業会計補正予算（第3号）について
- 第 9 請願第 1号 平成28年熊本地震に伴う御船町公民館上野分館の移設について
- 第10 陳情第 9号 陳情書について
- 追加日程第1 発議第4号 道路事業予算の総額確保等に関する意見書の提出について
- 追加日程第2 発議第5号 田上忍町議会議員への議員辞職勧告に関する決議について

2 出席議員は次のとおりである（14人）

1番 清水 蕙 君	2番 森田 優二 君
3番 岩永 宏介 君	4番 中城 峯視 君
5番 福永 啓 君	6番 田上 忍 君
7番 藤川 博和 君	8番 池田 浩二 君
9番 塚本 勝紀 君	10番 田中 隆敏 君
11番 沖 徹信 君	12番 井本 昭光 君

13番 岩田 重成 君 14番 田端 幸治 君

3 欠席議員（なし）

4 職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名（1名）

事務局長 福本 悟 君

5 説明のため出席した者の職氏名（18名）

町 長	藤木 正幸 君	副 町 長	本田 安洋 君
教 育 長	本田 恵典 君	総 務 課 長	吉本 敏治 君
企画財政課長	坂本 幸喜 君	税 務 課 長	宮崎 靖 君
町民保険課長	宮崎 尚文 君	こども未来課長	野口 壮一 君
福 祉 課 長	道山 敏文 君	健康づくり支援課長	西橋 静香 君
農業振興課長	藤野 浩之 君	商工観光課 商工観光係長	鶴野 修一 君
建 設 課 長	松岡 秀明 君	学校教育課長	坂本 朋子 君
社会教育課長	宮川 一幸 君	環境保全課長	緒方 良成 君
会 計 管 理 者	福田 敏江 君	監 査 委 員	山下 誠雄 君

~~~~~ ○ ~~~~~

午前10時00分 開 会

○議長（田端幸治君） おはようございます。

これから、本日の会議を開きます。

~~~~~ ○ ~~~~~

日程第1 議案第51号 平成29年度御船町一般会計補正予算（第5号）について

○議長（田端幸治君） 日程第1、議案第51号、「平成29年度御船町一般会計補正予算（第5号）について」を議題とします。

質疑を行います。質疑はありますか。

○5番（福永 啓君） 情報通信特会の繰り出しについてお伺いたします。10ページだった

ですか、歳出の説明書です。一般会計の予算説明書、歳出のところの10ページだと思えます。ここに、情報通信特会の繰出金約2,000万円、これが計上されております。人件費は一切計上しないという、たびたび指摘されますが、異例ともいえる特別会計の中、約6年間で積み立てていた当初の予定金を大きく下回ってはいたんですが、積み立てていた積立金、これもゼロにした上で、今回初めて一般会計からの繰り出しが約2,000万円出ました。過去の説明では、5年後には町内に設置してある、この町のあそこに設置してある機器の更新時期も迎えるそうです。その金額は以前の説明では大体1億6,000万円ほどということなのですが、これにはどう対処する予定ですか。

○総務課長（吉本敏治君） 今回一般会計からの繰り入れ、一般会計からは繰り出しになりますけれど、2,000万円弱のお金を繰り出すということですが、この大きな要因は熊本地震による工事費が増えたため、合わせてその委託料が増えたことにより、ということで繰り出しが出てきました。積立金も平成28年度末では1,800万円ほどありましたけれども、それも補正で取り崩しながら今回まで持ってきました。そして、今回280万円ほど基金の取り崩しと、合わせて一般会計からの繰り入れということになるわけですが、先ほど言いましたように工事費や委託料の増加ということになります。

それから、設備の更新等について、1億6,000万円ほどというお話がありましたけれども、これは当初整備するときにセンター局関係で1億6,000万円ほどかかっていると。あとが伝送路にかかるものということで、1億6,000万円という数字が出ておったかと思えますけれども、その中には、更新にかからない部分もあります。機器を固定するためのフレームであったりとか、変更しなくてもいい部分もありますけれど、最大で1億6,000万円ほどと。更新を、設備の初期投資をした段階で1億6,000万円という数字が、実際にはこれより下がると思いますけれども、更新時期にはそれぐらい、それ以下の金額が必要になってくるということになるかと思えます。現在の設備機器を、保守管理を含めながらできるだけ長くもたせると。

それから、この事業については、いわゆる公設民営という形で、交付金を用いて整備をしているわけです。ですから、自治体として運営をしなければならないというものになります。それを自治体の手から離すということになれば、当然財産の売却ということになるかと思えますけれども、このあたりはまだ交付金の、原則10年という縛りもありますので、そこら辺については、今後総務省とも話を聞きながら、どういうスケジュールでいつ

たほうがいいのか、あるいはそのまま運営をしていったほうがいいのか、そこら辺はまた町長とも協議をしながら進めていきたいと思っております。

○5番（福永 啓君） この情報通信特会なんですけど、実は加入者は当初予定よりも若干増えているぐらいなんです。順調に増えています。しかし会計上、これは私がよく言った隠れ赤字が、ついにきちっと表に出始めたという状況になってきたのかなと思います。加入者はきちっと当初の予定であるにもかかわらず、やはり積み立てが進んでいないと。これはこの事業の枠組み自体が町がやる事業として成立する可能性は限りなく低い事業だったのではないかなとは思いますが、そのあたりはどうお考えでしょうか。

○総務課長（吉本敏治君） 冒頭の質疑の中で、人件費の話も出ましたけれども、同様の会計として、例えば緑の村とか独自でやっている部分もあります。そういったものについても、一般会計からの繰り出しを行っているわけですけども、今回情報特会も同じように一般会計からの繰り出しということになります。

情報特会については、議員からあったように人件費というものは組んでおりません。これは、人員配置という部分については、例えば法令で定められている部分、町で言いますと福祉部門の保育園ですとか、そういう配置基準が法令上設けられているものもあります。しかし、一般会計の一般管理部門については、そういった縛りというのはほとんどありません。その関係もあって、独自で町の条例に基づいて定員の上限を今定めているわけです、職員の。その定員の適正化に基づいて職員を配置していくということになりますので、必ずしもそこに人件費を、人を置かなければならないということにはならないとは思いますが。法令上の縛りはないと思っております。そうであっても繰り出しが出てくるということになりますので、この辺については十分考えていかなければならないと。将来的なことも含めてですね。

確かに加入者ももちろん増えておりますけれども、それに伴って財産収入も少し増えてはおります。しかし、それでも震災の対応の部分としては、これには追いついていかなかったということになろうかと思えます。

○5番（福永 啓君） 震災とか、恐らく風水害、これは当初から、これは有線ですから何らかの事故が起こるといのは十分想定しておくべき範囲なんです。その保守管理も最初の時点で想定しておくべきことなんです。それを含めて、私はこれが、事業性の問題です。これが果たして町がやっていく事業として適当なのかどうか。事業性があるのかどうか。

それが非常に、私は不安に思っています。このまま町が続けていけば、これはますます町の負担が大きくなってくるような性格のものではないかなと考えておるんですが、そのあたりをお聞きしたんですけど、いかがでしょうか、課長。

○総務課長（吉本敏治君） これは有線ですので、光ケーブルそのものが有線ですので、断線とかいう恐れは必ずあるわけです。台風災害とかは特に該当すると思いますけれども。これは町が持っている財産ですので、その保険制度については加入しております。そういった保険の適用になる部分については保険の適用があるということです。ですから、全く整備しただけで、その後の管理を考えていないということではなくて、例えば庁舎であったり学校であったりと、建物と同様に共済保険に加入をしております。今回も、熊本地震によるものについては、その被害額について、今平成28年度分、平成29年度分ありますけれども、そういった作業を進めております。とりあえず平成28年度分はすべて終わっておりますので、そういった部分を取りまとめて請求をしたいと思っております。ただ、請求については被害額のおおむね15%程度が見舞金として来るだろうと思っております。それに基づいて、平成28年度分は。そして、平成29年度分は29年度分が完了した後にあわせて請求を行っていきたいと思っております。

ただ、今後の運営については、先ほど申しましたように町がこのまま継続して事業を行っていくのか、あるいは民間への売却を行っていくのか、いずれにしても民間への売却ということになりますと、交付金の絡みがありますので、交付金の返還という問題も必ず出てきますので、そういった部分については前もって総務省と協議をしながら、お話をお聞きしたいと考えているところです。

○5番（福永 啓君） あとは情報特会のところの質疑で若干行いたいと思います。だんだん一般会計から外れていきますので。

そうしましたら、次に、老朽化住宅の取り壊し費用が出ていたと思います、建設課から。35棟ですか。これで老朽化の中でも、よく議会の中でなっていた1軒屋の木造です。超老朽化している住宅、前回出ている分もありました。今回出ている分もございます。これで、老朽化の中でも戦後すぐ建てられたような、もう60年近い、そのような住宅の取り壊しがすべてできたと思うんです。まず、すべてこれで、そのところの取壊費用については、これですべて計上されたと思っているんですが、それでよろしいのですか。

○建設課長（松岡秀明君） お答えします。

この解体につきましては、今回の熊本地震に伴いましての罹災の所有者罹災を行ったところで、半壊以上の罹災が出たところについて、今回解体をするということで計上しております。

考え方としましては、生活再建支援制度です、そちらの制度というのが、来年の5月13日ぐらいだったと思いますが、それまでで生活再建支援の申請期限というのが終了するようになっているかと思えます。そういうことにも、そういった被災者の方々の救済のために、まずは解体という形でこの予算化をしたというところであります。

○5番(福永 啓君) それもお聞きしたかったんですが、まず、議会でたびたび話題になっているように、戦後すぐ建てられた1戸建ての木造住宅です。築50年とか、著しく建築年数が経っているもの、著しく使用限度を超えているもの、これについては、大体今回の予算ですべて、私は費用が出てきたんじゃないかなと思っていたんですが、一応その確認をしておきたいなと思って、それでよろしいですか、大体、そういう理解で。

○建設課長(松岡秀明君) お答えします。

これについては、耐用年数を過ぎた町営住宅がすべてこれで解体ということになるということではありません。

○5番(福永 啓君) もちろん耐用年数を過ぎたものには当然住宅も過ぎておりますし、そのほかには観音院住宅、平原住宅、そのあたりも耐用年数は過ぎております。ただ、そのようなもの以上に、ここでたびたび話題になっていたような木造の1戸建てです。そこで、一番の喫緊の危険性があると思われるところ、そのあたりは今回の予算で一応すべて取壊費用は出てきたのではないかなと、この間お聞きして思ったんですが、その確認をしたかったんですが、それはよろしいでしょうか。

○建設課長(松岡秀明君) お答えします。

それについては、今確認がされたとおり、ほぼこれで解消はされるものと認識しております。

○5番(福永 啓君) もちろん、ほかにも耐用年数を過ぎたものはたくさんございますので、これでひと安心というわけにはいかないんですが、少なくとも議会でたびたび話題になっているような、本当に誰が見ても危険であると言われている、戦後すぐです、50年、60年経ったような住宅については、やっとならば費用が出てきて、これで本当にこれは評価したいと思っております。

今回の取壊計画の中で、まだ苦渋していらっしゃる方もいると思います。そのような方については具体的にどのような対応をしていく予定でしょうか。

○建設課長（松岡秀明君） お答えします。

当然、今35戸の予算を計上していますが、この住宅についてはすべてが今退去されているということではありませんので、残っておられる方については、今現在あります仮設住宅の空いている部分、それから既存の町営住宅への住み替えとか、そういったもので対応したいということで考えておりますので、その辺のところについては、今入居されて残っておられる方たちについては交渉をしているところであります。

○5番（福永 啓君） まだ数十世帯の方が恐らくこの中に居住世帯が含まれているものと思われま。今から住み替えを進めていかなければいけない、これはやはり命と財産の問題ですから、町としてやらなきゃいけない仕事なんです。ただ、これは何回も言っていますね、それをやる上で大変やはり担当者には負担がかかると思います。私も実際訪ねてみましたので、もうそういう問題じゃないと、私はここにいると、死んでもいるという方もいらっしゃいました。しかし、それを町としては、町民の命と財産を守るのは町の仕事ですから、「ああ、そうですか」と言うわけにはいかないんです。そのためにも、担当の方にはとっても苦労がかかると思います。その際に、ぜひ区長ですとかボランティアの方々ですとか議員の方たちとか、ぜひここを今からします、何かできればという話を回してください。彼たちではとてもやっぱり精神的にもきついと思います。そのあたりを十分視野に入れて今後住み替え、そこから移転してもらわなければいけないわけですから、その活動をしていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

○建設課長（松岡秀明君） 大変ありがとうございます。今議員から御意見をいただいたことについては、職員も今熊本地震の災害復旧の関係でいろんな災害復旧事業に取り組んでいます。そういった中で、こういった入居者の方々との交渉等については、大変な部分がありますけれども、それについては、ぜひいろんな関係する方々の御協力をいただきながら進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

○議長（田端幸治君） ほかに質疑はありませんか。

○9番（塚本勝紀君） 今の質問と同じ質問ですけれども、町営住宅の歳出の58ページです。この中に、22棟の下に13棟とありますけれども、そのビジョンです、平屋にするか2階建てにするか、いろんな問題があると思っておりますけれども、ビジョンはどのように考えており

ますか。

○建設課長（松岡秀明君） ちょっと確認をさせていただきたいと思います。歳出補正の予算説明書の58ページの下のほうになりますか。はい。

これについては、一応今の福永議員の質疑の中で説明をさせていただきましたが、解体をまず行うわけですけれども、この後の建て替えといたしますか、そういったことについての御確認かと思えます、質疑だと思えますが、それについては、今現在、すべての住宅がこの解体をすることで、例えば1つの団地が全く空いてしまうとか、そういった状態にはならないというか、そういうことになります。

ですから、今申しあげましたように、すべての団地が解体が進んで空いた場合には、その団地について、例えば災害公営住宅とか、あるいは民間への払い下げというところも視野に入ってくるかと思えますが、具体的にここに例えば町営住宅の建て替えを今どういふふうに建て替えるかという、そこまでのビジョン、考え方は今のところはっきりしておりません。これから、そのことについては、災害公営住宅の建設も視野に入れながら進めていきたいと考えております。

○9番（塚本勝紀君） 避難場所あたりは考えていますか。避難場所。

○建設課長（松岡秀明君） お答えします。

避難場所ということで、ここを例えば跡地を避難場所として活用するかどうかということかと思えますが、それについても、大変御意見としてはありがたいし、また非常に前向きな考え方だと思いますが、これについても、今ここで具体的に避難場所にどうということはまだ検討しておりません。大変申し訳ありません。

○9番（塚本勝紀君） 説明書60ページの消防70周年記念等がありますけれども、名前を、氏名を出したらどうでしょうか。

○総務課長（吉本敏治君） この消防70周年記念式典です、これにつきましては、自治体消防が発足して70周年記念の式典が行われたということでありまして、これは消防団と職員等のための費用弁償ということになります。70周年記念に参加するということになります。

○9番（塚本勝紀君） 参加されるわけですか。

○総務課長（吉本敏治君） 参加になります。

○議長（田端幸治君） ほかにありませんか。

○7番（藤川博和君） 説明書の42ページの時間外が相当多額になっておりますけど、これは

積算関係とありますが、大体1人当たりの時間外はどのくらい増えていますか。

○農業振興課長（藤野浩之君） お答えします。

今の時間外の件ですけれども、これは農業振興課の耕地係が中心となっております。今災害復旧事業の積算業務だったり発注業務ということで、限られた人員の中で、期限のある中での事業ということで、時間外の時間数としては相当数の時間外勤務を行っているところでありまして、80時間を基準に今時間外は勤務命令という形でやっているところではあります。

○7番（藤川博和君） 時間外も多分80時間以上だろうと思いますけれども、健康に留意されて、町のために積算と入札の関係に対して大いに頑張っていただきたいと思います。

続いて、学校教育の机の問題ですけれども、65ページです。この机・椅子の単価が学校によって違うとです。この違いはどういう違いですか。

○学校教育課長（坂本朋子君） お答えします。

その前に学校の机・椅子の規格について御説明させていただきたいと思います。1999年、今から18年ほど前にJISの企画が変わりまして、机・椅子が大体は新規格に順次移行していただきということになっていたんですけれども、御船町の場合はなかなか進んでおりませんで、その関係で最近小出しで精査をさせていただいているんですけれども、その中で御船小学校につきましては、今回の20個が最後になります。ほかの学校についてはほとんど進んでないところが多いので、数が必要になってまいります。今後はほかの学校の規格でずっと押していきたいと思いますが、御船小学校に限りましては、この20個が最後になりますので、クラスの中で半分だけ違うのがポツッと残ってしまうことがないように、今回だけ単価が違うものを認めたところです。

○7番（藤川博和君） ということは、この場合は40何万円ありますけれども、これは入札してされたのですか、それとも随契のような感じですか。

○学校教育課長（坂本朋子君） 10万円を超えるものにつきましては、必ず3社に依頼をかけた上で、見積もりでの入札にしております。

○議長（田端幸治君） ほかに。

○7番（藤川博和君） 滝尾小学校のナイター施設の件ですが、こらが、学校授業、滝尾小学校の中に入っていますので、ナイター、その内訳は町民グラウンドが使用できないという内訳ですね。これは町民グラウンドにした場合、社会体育ではないのですか、学校教育

ではなくして。

○社会教育課長（宮川一幸君） 今町民グラウンドが使えない状態で、1つの団体が今年度、平成29年度が4月から週3回ぐらいずっと借用して、大体今までで100回ぐらい使用しております。もともとナイター照明は独立してそれだけメーターを付けているところもあるんですが、滝尾小学校が設置した頃がそのままメーターだけを独立してなかったもので、学校の電気料で支払っていたという形になります。

このお話もあったときに、こちらでも協議したんですが、もしこれ専用にもたメーターを付けたという形であれば、確かに社会体育では支払いはしていけるんですが、結局、平成27年度で使用回数が年間で大体18回ぐらいしかあっておりません。そうしますと、使わなくても、基本料金でも年間2万円から3万円ぐらいずっとかかってくるので、ランニングコストを考えれば、震災のためで一時的なためですので、今回は滝尾小学校の電気代で計上したいと思っておりますので、そういった形でよろしいでしょうか。

○7番（藤川博和君） 最後になりますけど、給食センターです、この配送の委託料、この説明をお願いします。

○学校教育課長（坂本朋子君） お答えします。

当初に、平成29年度の予算要求をする時点では、委託料で最初計上していたんですけども、予算査定の中で、臨時職員で賄えるのではないかということになりまして、予算を組んだ時点では臨時職員で予算化してありました。3月末までに一生懸命探したそうなんですけれども、どうしても必要人員を確保できなかったということで、4月3日から稼働しなくてはいけなかったのが、急遽臨時職員からシルバー人材への委託に流用させていただけないかというお願いがありまして、その結果流用を認めてあるというところなんです。今まで、流用につきましては議会への御報告という習慣がなかったのが、全く頭にありませんでした。ただ、予算として不足が生じることが見込まれておりましたので、本来であれば御報告するべきだったかと思っております。

○7番（藤川博和君） これは私も一般質問で十分前課長とはやりました。そのときは臨時職員としての採用ということですね。シルバーなどは全然答弁はなかったです。この臨時職員としては、臨時職員に対する、今度の場合、委託された場合はどういう待遇をされるのですか。臨時職員の待遇は辞めさせるとですか。もう運転手は。

○学校教育課長（坂本朋子君） 今現在、シルバー人材センターから人材の派遣という形をと

らせていただいておりますので、実際のところいろんな経験を持った方が実際業務に当たっておられます。4月当初の混乱期においても大変培ってこられた能力を十分に発揮していただきましたので、大変ありがたかったかなと思っております。今後もシルバー人材センターで行きたいと思っております。

○7番（藤川博和君） 最初からシルバー人材というなら、それなら予算自体が違っていたんですね。

○学校教育課長（坂本朋子君） いろいろなところに当たったと聞いております。人材がいなかろうか十分に探したけれども、どうしても時間が足りずに、4月当初に間に合わなかったと聞いております。

○7番（藤川博和君） 要は公の予算の中に計上するとですよ。それにはっきりと委託料は委託料と、その当時あって、でないといこうやって急に委託料が増えたというとは、ちょっと時期的に、センターが始めて4月でしょう。まだ時期が何箇月しかたっていないのに、こういう簡単に要は委託料として変更できるとですか。

○学校教育課長（坂本朋子君） よく非常勤職員で雇おうと思っていたけれども、どうしても4月までに人材が見つからなかった、というときに、臨時職員で対応させてくださいとか、そういうことは過去にもございました。本当は一生懸命探したけれども、どうしても見つからず事業に支障を来すために、こういう理由で流用させてくださいという決裁をもらっております。

○7番（藤川博和君） 今、決裁というのは、どなたが決裁をされたんですか。

○学校教育課長（坂本朋子君） 予算の流用につきましては町長決裁になっております。

○7番（藤川博和君） 町長、お尋ねしますけれども、そういう決裁は上がってきましたか、いつ。

○町長（藤木正幸君） 最終的に人が足りないという報告のもと、決裁したと思っております。

○7番（藤川博和君） このように、予算化されてすぐ委託料関係に変更できるということは、最初から私は、センターは民営化でやってくれということを申し入れましたけど、このような体制はすぐできますか、何年後か、すぐにできるような体制ではないとですかね。こういう簡単に委託料に変更できるということは。

○学校教育課長（坂本朋子君） 臨時職員を雇うかシルバー人材センターに委託するかという問題と民間委託というのは、また別の話かと思えますけれども、町としてはいずれの段階

かでは民間委託をとすることは検討しております。

○7番（藤川博和君） 今言われた民間委託を検討されているということは、早急にできますか。大体2～3年後には教育長の答弁で言われておりましたが、そういう検討はされておりますか。

○教育長（本田恵典君） 民間委託については、もちろん考えてはおりますけれども、今現在、正規職員が所長も含めて8名おります。それから非常勤職員が8名おります。こういった職員の処遇等も考えなければなりませんので、そのことをしっかりかんがみて考えていきたいと思っております。

○議長（田端幸治君） ほかに。

○4番（中城峯英君） 先ほどの藤川議員の関連になるかと思いますが、農業振興課の時間外労働です。1カ月当たり80時間ということですが、役場の場合は1カ月当たりの時間外労働の制限というのは、何か規定があるのですか。

○総務課長（吉本敏治君） 今現在は、確かに昨年は熊本地震の影響もありまして、上限等についてはあつてないようなものという感じでした。被災者対応のためには限られた人数でしたのでやらなければならない分はもうやむを得ずやっていたというところがあります。そういった中で、体調を崩す職員も出てきました。その中で、当時精神科の先生も応援当時来ていただいておまして、災害対策本部会議の中にも入っていただきまして、職員のそういう長時間労働についての弊害、こういったところでの説明もありました。それを受けて少しずつではありますがありますけれども、それを改善していかなければならないということで、平成29年度になりましてからは上限を80時間、しかしそれでも公共土木関係や農業土木関係の職員については、やはりそれでも賄えないという部分もありましたので、最小限の時間外については、それをオーバーする分についても、体調の管理を、本人も含め課長にもそれは常々申しておりました。職員の健康を害さないようところで配慮してもらいたい。今でもそれは注意喚起は必ず毎月の勤務時間外の状況を見ながら行っているところです。

○4番（中城峯英君） 大変な状況の中で大変な御苦勞を心身ともに身を削って御苦勞されたということは重々承知しておりますけれども、ただ、私ども民間の会社は労働基準法、当然労働者ですから労使協定で、労協の36条の協定、36（サブロク）協定と通称いいますけれども、大体民間でも1カ月当たりの時間外労働制限というのは30時間です。もちろん繁

忙期だとか、その場合は追加協議等を労使でやりますけれども、80時間といいますと、本当に体を壊しますよね。心も病むと思います。大体1日に3時間、4時間ぐらいになりますので、そういったことで今回条例の改定も60時間になりましたよね。出ていました。それ以上になったら代休を取りなさいという条例も、そういうことから先日の条例の改正にもなったかと思えますけれども。今の状況はやむを得んとは思いますが、今総務課長のお話のように、やはり職員も労働者ですから、それは皆さん方管理職もそうでしょうけれども、やはりそういったことも十分配慮しながらやっていただきたいと思います。これはお願いします。

それと、すみません。一般会計の歳入説明書です。歳入の1ページに、特別交付税の歳入が2,200万円ありますけれども、これは熊本地震に係る中長期的人的支援に係る措置の追加分となっております。もちろん歳出にも同額が計上されておりますけれども、この内容の説明をお願いいたします。

○企画財政課長（坂本幸喜君） お答えします。

この分に関しましては、歳出の4ページ、5ページに中長期的な人的支援に係る、その支援員の給料とか旅費に関しまして経費にかかった分の約8割を、この特別交付税として措置されるということで歳入に上げております。

○4番（中城峯英君） これは期間の制限がありましたよね。だから、9月でしたか、田端議長名で議会から要望書を衆議院議長とか安倍総理大臣に出しましたよね。そのときに皆さんお聞きになりましたが、財務局長がそれを継続でやりますというお話がありましたので、その効果があらわれたのかなと思ったのですが、まだそれではないんですか。

○企画財政課長（坂本幸喜君） この分に関しましては、すみませんけれども、そのときにこちらから国に陳情とかで行きましたけど、その分じゃなくて、前からこれはあった分になります。

○総務課長（吉本敏治君） 今のお尋ねの件は、いわゆる自治法に基づく派遣協定に基づく他の自治体の職員の分ということになります。

今、中城議員がおっしゃったのは、いわゆる任期付職員の件だと思いますけれども、任期付職員の件については、まだ正式に届いていないと思います。国としては、地方の意見も聞きながらということだと思いますけれども、具体的に任期付職員の調査関係というのはまだ来てないと思います。幾らかかったかという、その経費に対して、じゃあ特交でど

のくらい見ようとか、そういった部分については、まだ具体的なものは来てないと思います。

○4番（中城峯英君） はい、黒田財務局長が私どもの前で明言されましたので、それは注意深くこれから見とってください。任期付職員の継続のは、それはやりますということで、はっきり言われましたので、それは注意深く見ておっていただきたいと思います。

それともう1点です。歳入説明書の4ページですけれども、県の支出金として復興基金から7,000万円の歳入があります。新聞報道で御存じですけれども、県の復興基金100億円の配分のうち、御船町が5億2,500万円とありました。その中で、今回の配分になったと思いますけれども、使い道は結構制限がありますよね。今回は被災宅地の支援事業で、これは歳出に6,300万円出ていますけれども、有効な使い道をしていただきたいんですけれども、今お考えなのはこういった使い道をお考えでしょうか。

○企画財政課長（坂本幸喜君） まずお答えします。

約7,000万円の歳入があっています。これはこの間新聞に載りました5億2,000万円の創意工夫分ではありません。これは熊本復興基金のメニューに掲げられたその前の分の歳入ということで、今回その事業を歳出で組んでおりますので、その分に対する歳入ということになります。

議員が言われました5億2,000万円の創意工夫分です。あれに関しましては、まだ予算化は全然しておりません。今後、その分に関しましては、今検討しておりますけれども、まず多分5億2,000万円すべてを今年度で使うのは、ちょっと難しいということで、まずは今年度中は基金に積み立てまして、しかしその分の一部を災害漏れの農業の災害復旧ですか、そういうあたりの工事では財源として持っていきたいと考えております。

○4番（中城峯英君） これからということですがけれども、有効に活用していただきたいということで、終わります。

○6番（田上 忍君） まず、先ほどから出ている時間外の件ですが、これは農政に詳しい職員が異動しましたよね。そしてその補充がされていない。これが原因じゃないんですか。町長、いかがですか。

○町長（藤木正幸君） 今回の人事異動とは関係はございません。

○6番（田上 忍君） その人がいても、やはりこんなに残業が増えたということでいいんですね。ちょっと疑問に思いますけどね。

では、債務負担行為の補正のところで尋ねます。まず、すみません、議会関係なんですが、議会録音のインターネット配信、これについて説明をお願いします。

○議会事務局長（福本 悟君） お答えします。

議員も御存じのとおり、限られた予算の中で、議会の情報発信ということで、このインターネット予算を計上しています。あくまでもこれは限られた予算ですので、本来であればほかにもいろいろな発信方法はありますけれども、昨年と同様のところで予算は計上している状況であります。

○6番（田上 忍君） 言いたかったのは、今まで一般質問については録画配信されていたと思うんですが、これはいつからまた録画配信されるのでしょうか。

○議会事務局長（福本 悟君） お答えします。

操作上で準備が整い次第、インターネットの公開をしていきたいと思えます。

○6番（田上 忍君） わかりました。早急に復旧できることを期待しております。

それから、あと学童保育の債務負担行為、たくさんの方々の持っているんですが、来年度の見込みというか予定入所者数、利用者数を教えてください。

○こども未来課長（野口壮一君） 学童クラブの平成30年度の見込みということで、8月に町内の保育所等に年長を対象に、保護者へのニーズ調査を行いました。その結果、全体で約92名が新たに利用したいとなっております。その後、平成30年度の全体の利用者の登録が414名になる見込みです。10年前と比べると、約219人の増員ということになります。よって、今回債務負担を上げているこの経費をもって待機児童が出ないような措置をとってきたいということになります。

○6番（田上 忍君） 申し訳ありませんが、それぞれ学童クラブについて人数をお願いします。

○こども未来課長（野口壮一君） 御船小学校には3つの学童クラブがあります。まず、御船どんぐりクラブです。現在が40名、来年度の見込みが48名です。それから御船小学校くるみクラブ、現在が41名、来年度の見込みが51名です。同じく御船小学校のしいのみクラブ、現在が39名、見込みが49名になっています。小坂小学校の小坂ひまわりクラブが、現在が40名、来年度が46名の見込みです。同じく、小坂小学校ひまわり第2クラブ、現在が44名、来年度の見込みが50名です。木倉小学校の木倉あけぼのクラブ、現在の受け入れが46名、来年度見込みが64名です。高木小学校、滝尾たんぼぼクラブ、現在が16名、来年度見込み

が20名となっています。それから高木小学校、高木うさぎクラブ、現在が48名、来年度見込みが60名です。七滝小学校、七滝かなえばクラブ、現在の受け入れは19名、来年度の見込みが26名になります。トータルで、現在の受入総数が333名、来年度の見込みの総数を足し込みますと416名になります。

○6番（田上 忍君） 今聞いた中でいくと、木倉と高木が60名を超えるということで、そのために下のプレハブのリースが入っているかと思うんですが、この2つの学童、60名を超えるということは、そろそろ分割も考えなきゃいけないのかなと思います、今後どのように考えているかを教えてください。

○こども未来課長（野口壮一君） 今、田上議員から御指摘がありましたように、町の条例でも1つのクラブ45名程度が理想とするというところで決めているわけなのですが、これを上回るような登録数になります。実際、登録はしてあるけど、実際使う児童数というのは、この約7割から8割の子どもたちが実際に学童クラブを利用したりしているわけです。

分割となれば、そこに新たな支援員が必要になります。今広報みふねでも、小坂、木倉の支援員の募集も掲載しているわけですが、なかなか支援員の確保が難しいという今の現状もありますので、今のところはまだクラブの役員とも話をした中では、今のところ1つのクラブでまだいきたいということで、そういう方向で今進めている段階であります。

○6番（田上 忍君） すると、来年度は1つのクラブということですが、その後将来的にはまた平成31年度増えてくるということが考えられるときには、分割も考えていますか。

○こども未来課長（野口壮一君） 平成31年度から、小学校の運動部活動廃止がなされていきますので、自ずと学童クラブのほうに、増えてくる可能性があります。その辺はこの60名を超えるような学童クラブの役員とその辺は十分協議をして進めていきたいと思います。

○6番（田上 忍君） 先ほどの説明では、ひまわりとひまわり2も人数が出ていたんですが、今回は補正が出ていないのは補正が必要ないから出てないんですか。

○こども未来課長（野口壮一君） 小坂のひまわりクラブについては、平成28年度の繰越事業で、今小坂分館の横に新たに第2クラブ用の学童クラブの施設を建設することになっております。もう発注をして、まだ基礎の段階です。

○6番（田上 忍君） だから、補正が必要でないからここにはのってないということでしょうか。

○こども未来課長（野口壮一君） すみません、小坂小学校については、単年度の債務負担で

はなくて、今小坂学童については民間に運営の委託をしております。そのときに、5年間の債務負担で計上をしてありますので、今回の単年度の債務負担には計上しておりません。

○6番（田上 忍君） 学童についてはよくわかりました。

では、あとは予算説明書の歳出で94ページ、中原団地のごみ処理の予算がのっております。たしか10月の全員協議会だったのでしょうか、このときに中原団地の今後の作業項目ということで10幾つ出ていたかと思います。そのときに上げられていたこのごみ処理の予算は幾らだったですか。

○建設課長（松岡秀明君） お答えします。

たしか全員協議会だったですか、その中で説明をさせていただいた中では、まだ予算については具体的に積算ができていなかったということで、まずは金額的にははっきりと申し上げてはなかったような気がいたしますが、そのときの段階としては、予備費で対応をしたというところであります。予備費で対応した分については27万円での予備費対応をいたしております。

○6番（田上 忍君） もう1回、その資料を見てもらえませんか。金額は出ていたと思います。そして全員協議会の中でもどなたか議員が、「この数値は正確な数字ですか」ということで尋ねたと思います。全体の数字で、おおよそこの数値で終わるよという回答がそこでされています。違ったでしょうか。

○建設課長（松岡秀明君） 今の件については、確認をさせていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

○議長（田端幸治君） それでは、金額を出してもらったがいいですか。

しばらくお待ちください。

11時10分まで休憩といたします。

~~~~~ ○ ~~~~~

午前10時57分 休憩

午前11時10分 再開

~~~~~ ○ ~~~~~

○議長（田端幸治君） 休憩前に続き、会議を開きます。

○企画財政課長（坂本幸喜君） すみません、先ほど中城議員から任期付職員の財政措置ということで、確認したところ、平成29年度に対しまして、任期付職員に関しましては特別交

付税として80%の措置をするということで、一応口頭ではありますが、うちに連絡がありましたので、平成30年度もそのまま継続するというのが、県の市町村課長で町に連絡が入っています。これも議員それに町長、町で国に陳情とか要望に行かれた結果だと感じております。

○建設課長（松岡秀明君） すみません、先ほど田上議員からの質疑の件で、確認をさせていただきましたので、説明をさせていただきます。

これは10月の議会のたしか災害復興支援特別委員会の中だったと思います。その中で中原団地について説明をした中でありますが、まず、この中で、中原団地のごみ分別の運搬業務委託として、そのときはまだ事業費というか、それが確定していない段階での説明であったということで、100万円の金額を説明として申し上げたと思います。

○6番（田上 忍君） それと、そのときには積算してなかったからおおよそ100万円ぐらいだろうということで出したということよろしいんですか。

○建設課長（松岡秀明君） はい、議員が今言われたとおりであります。その後、詳細な積算を行ったということになります。

○6番（田上 忍君） そしたら、あの会議のときに、もうこの一覧表に載っている数値で大体中原団地は片付くということで答えられているんですね。だったら何でそうやってまだ不確定要素があるということで、あのとき説明されなかったのかなど。そこはやっぱり私は不思議に思います。それはもう置いときます。

あと、ほかにもたしか15項目ぐらいあったかと思うんです。その中で、もっと高い金額の事業があったと思うんですが、そっちはどうなんですか。あのときにいただいた資料の数値と大体合っているのでしょうか。

○建設課長（松岡秀明君） この前その中で説明をしました後に、事業費の精査をした中で、2～3、2つほど金額が変動しているものがあります。中原団地の大規模盛土事業です。この事業については1期工事と2期工事と2つに分けておりますが、その2期工事の分について、金額が1億1,000万円ということで、そのとき説明をした経緯があったと思いますが、その2期分について約1億5,000万円ほどに金額が変わっております。

それと、中原団地の建物の災害復旧工事ではありますが、これがこのときは予算額として4億4,500万円ほどの金額を申し上げておったと思いますが、それが、大体2億5,000万円かぐらいの金額に変動をしております。

そういったところであります。

○6番(田上 忍君) そうしますと、4億円かかっていたのが2億円代で終わるということは、トータル的には一覧表の数値内で終わると認識してよろしいですね。

では、その中で、今言われました中原団地の復旧工事、玉虫団地が昨日の話だとちょっと遅れていて、ほぼ終わりにかかっているかと思います。たしか玉虫団地が工事の発注が出て、その後中原団地のこの復旧工事が出たと思います。たしか設計監理は同じ業者が受けていると聞きました。続けてこうやって出たのに、どうして同じ業者が受けるのか。同じであれば、御船町にはほかにもたくさん業者がおられるから、別なところにいってもいいのじゃないかと思うんですけど。何かおかしいと思いませんか、町長。

○町長(藤木正幸君) 被災を受けたとき、発災当初より見ていただいたところに見ていただいているというところになります。

○6番(田上 忍君) そういう理由なんですね。変なことはないということで認識してよろしいですね。

次行きます。今回それがごみ処理が100万円から約2.何倍に増えたということで、このごみの、内容的にはどういうものがありましたか。

○建設課長(松岡秀明君) お答えします。

ごみの内容でありますけれども、いろいろなものがあつたわけですが、大体目立ったやつとしては、申し上げますとテレビ、パソコン、タイヤ、それからあとは廃用になったプラスチック製品、もう要らなくなったようなプラスチック製の製品です。そういったものが大体ごみとして目立ったものであります。

○6番(田上 忍君) 今言われたように、タイヤそれからブラウン管テレビですか、パソコンとテレビも含めて、そうしてあとたしか車の部品もあつたと思います。ボーリングの球もあつたと思います。そしてたしか倉庫もそのまま出されていたと思います。こういうものは、倉庫は何とかなるかもしれませんが、ほかのものは通常ごみでは取ってくれません。仮置き場にもこれは持っていけないものであつて、それからクリーンセンターにも持っていけない。ということはこれは特別に処理しなければいけない。普通の人たちは、例えばブラウン管テレビ等はちゃんと電気屋とかごみ処理場に持って行って、お金を払ってそして処理している。これに対しては、ここの中原団地のものはどうされましたか。

○建設課長(松岡秀明君) お答えします。

この特別収集分という考え方になるかと思えますけれども、これについては、町で処理をしました。

○6番（田上 忍君） では、これについては幾らかかっていますか。

○建設課長（松岡秀明君） 金額については、大体27万円の費用がかかっています。

○6番（田上 忍君） それもこの補正予算の中に入っていると思えていいのですか。

○建設課長（松岡秀明君） この分については、先ほども申し上げたと思いますが、予備費でまずは対応をいたしております。

○6番（田上 忍君） わかりました。ということは、ごみ処理については約300万円ぐらいかかっているとみてよろしいわけですね。

あと、この中原団地はいまだに長期避難の地域であるかと思えます。ここに住民を入れて、住民がまず自分で自分のところのごみを片付けたと。これに対して、要は危険地域に入る、長期避難地域に入る、これに対して町長はどう思われますか。

○町長（藤木正幸君） そのために職員が張り付いていました。

○6番（田上 忍君） その職員は何をやっていましたか。

○建設課長（松岡秀明君） お答えします。

団地内への入り口での入ってくる方々のチェックというか確認、それと団地内においての分別の状況についてのいろいろな対応といたしますか、指導的なことも行っておったかと思えます。

○6番（田上 忍君） ここは危険地帯だと、長期避難地域だということで、何か特別にやられたんですか。

○建設課長（松岡秀明君） 安全対策ということでの対応かと思えますが、そういったことについては、職員がそこに交代ではありますが、その分別のごみの搬出期間中は2名の職員が常時付いておったということで、それをもって、安全への配慮をしたということで考えております。

○6番（田上 忍君） たしか2人か3人おられたと思えます。1人は入り口で鍵の受け渡しとか、どなたが来たかというチェックされていたかと思えます。ただ、あと1人か2人中を見回りをされながら、何やられていたか、私もそこに何度か行ってみましたけれど、ちょっと何をやっているか、よくわからなかったです。もっと何か、ここは長期避難地域だという認識を持っていろいろやってもらえたらよかったんじゃないかなと。そして、ごみ

の分別等も指導されていたと言いますけれど、本当にそれが分別されていたのか。誰か役場の人たちは、その後見ましたか。

○建設課長（松岡秀明君） ごみの分別については、入居者の方以外にも、いろんなボランティアの方も御協力をいただいたような経緯がありますが、そういう中で、分別ができる分については、可能な限り対応を行ったという認識をしております。

○6番（田上 忍君） 認識されたというのだったらそれで、それ以上はもう聞かないことにします。

あと、すべての片付けが必要な人が全部片付けたんでしょうか。まだ残っているものがあるんでしょうか。もしそれが残っていたらそれはどうするんですか。

○建設課長（松岡秀明君） お答えします。

大方、おおむねの方はごみ処理と後片付け等について対応されたと思いますが、中にはどうしても対応ができないような方々もおられたと思っておりますが、そういった方々については災害復旧を、今はもう既に工事に着工しておりますが、そういう中で、中に入っておりますそういった家具類を含めたものにつきましては、別に倉庫を設けまして、そちらに復旧作業をする中で移設をして、そして災害復旧工事をした後に、また該当する住宅に家具類の用具については、またもとのとおりに返して作業を進めていくような対応をするように考えております。

○6番（田上 忍君） あと、あそこを片付けるときに、住民の方には、もう片付けきらないものは残していいよと。そして権利を放棄するという事で、文書を書いてくださいということで、そういうのもあったかと思えます。そうやって権利を放棄されたものについてはどうするんですか。

○建設課長（松岡秀明君） そういったことについては、結局ほかのそういったごみについても町で処理をしておりますので、町で処理をするように考えております。

○6番（田上 忍君） という、今は町が鍵を預かっているわけだから、その部屋に入って町で処分するという事でよろしいんですね。

○建設課長（松岡秀明君） 当然、部屋に入るということで、個人の住宅と同じようなことになりますので、入居者の方の同意を得た上で、あるいは立ち会いを得た上で処理をしていきたいと考えています。

○6番（田上 忍君） そうしますと、またそこに費用がかかってくるかと思いますが、いか

がですか。

○建設課長（松岡秀明君） それについては、また改めて別途、金額についてはまだ詳細には確認できませんが、費用が生じることになります。

○6番（田上 忍君） ではまた出てくるということですね。

では、今回たくさんの方が被災しました。そして、それぞれ中原団地以外の人たちはごみ処理というか、ごみといったら失礼なんですけれども、どうしても捨てなければいけないものは、自分たちで捨てられています。ブラウン管テレビとかタイヤとかもし持っていたら、それは自分の金で捨てられています。自分で金払っています。どうして、中原団地だけこうやって町がやるんですか、町長。

○建設課長（松岡秀明君） お答えします。

この考え方としては、まずもって町営住宅ということではありますが、その地盤であります中原団地の地盤が地滑り的な現象を起こして、その結果危険であるということで長期避難の指示を町が発したということで、そのことによって、その辺のところ町が対応せざるを得ないという判断ということで考えております。

○6番（田上 忍君） 危険地帯といったら、それぞれ皆さん被害に遭ったところはみんな危険ですよ。だって半壊とか大規模半壊とか、そういうところの人たちだって、家に入って片付けているんですよ。どうして中原団地だけ特別扱いをするんですか。これは町長、教えてください。

○町長（藤木正幸君） 一言お答えいたします。

中原団地は今回長期避難世帯として町が認定して行っているところです。住民の方々に大変な御迷惑をおかけしております。その中において、できる限りのことはやりたいというところで進めているところです。

○6番（田上 忍君） では、行政とかいろんなところは平等性といいます。これは中原団地とほかの被災者の方を比べて、その平等性は保たれると思いますか。どうですか、町長。

○町長（藤木正幸君） 今回の震災において、何も区別したという意識は持っておりません。

○議長（田端幸治君） ほかにありませんか。

○3番（岩永宏介君） 歳出予算説明書の、4点ほどありますので、まず8ページ、そこに2つ補助金が出ております。生活交通路線維持費補助金、それから地方バス運行等特別対策補助金というのが出ておりますが、まず、上のほうの補助金については350万円増えており

ます。この理由。それから下のほう、地方バス運行等特別対策補助金は熊本バスは166万円ほど減、産交バスは69万円ほど増になっておりますけれども、この理由です。

それと併せて、この2つの補助金の関連性でこんなふうなところがありましたら、こんなに変更になったりするのかな、そこを教えてくださいませんか。

○企画財政課長（坂本幸喜君） お答えします。

ここに補助金が2つ上がっておりますけれど、まず生活交道路線維持管理補助金、これは補助路線という形になります。そして下のほうの地方バス運行等特別対策補助金は単独路線ということで、まず上のほうの補助路線なんですけれど、これは1日当たりの乗車人数が15人以上という形になります。下のほうの単独路線の特別対策補助金は1日の乗車数が15人未満というところが、まずこの2つで分かれております。

まず上のほうの熊本バス、産交バスの350万円、今回増額になっております。これは地方バスの赤字補填という形で町から補助している分になります。今回この増額になった分は、これは人件費とか燃料費の増なんですけれど、主なものは走行距離です。走行距離の延長の増という形になります。熊本地震の影響も若干ありまして、迂回路等あたりで広域農道あたりを使っておりますので、その分に関しまして走行距離が増えたということで増額になりました。

下のほうの補助金の、今度は地方バス運行等特別対策補助金の減額、こちらは熊本バスは160万円の減額、産交バスは69万円の増額になっておりますけれど、まず熊本バスに関しましては、走行距離の減です。これは御船町だけではなくて、すべての周りの市町村、その場合すべての計算の上に按分です。御船町はこの分に関しましてはそう増えてはおりませんが、他市町村でも減ってきておりますので、その分に係る分の案分率で下がったということになってきます。

逆に産交バスの分の増に関しましては、先ほど言いました人件費のメニューが若干上がっておりますので、その分に関しまして増額補正が発生したという形になります。

○3番（岩永宏介君） そしたら今の2点目が変わります。今度は47ページです。そこの熊本地震・豪雨災害に係る林道修繕費、これは事業箇所と書いてありますけれど、これは書き方というか説明書ということですので、この事業箇所1カ所というのは、これは事業箇所数だったら1カ所でいいんでしょうけれども、箇所がどこなのか全くわかりませんので、これが1点です。

それから、これは簡単なものですので続けて65ページです。今度は学校施設電気料です。学童クラブ利用分、これは学校施設内教室を利用しているためということですので、これはまた先ほどと一緒にですが、どの学童クラブのことか。そのあたりを教えていただきたいと思います。

それから続けて申し上げます。今度は55ページです。ちょっと前後しました。55ページは、補助金ですが、被災住宅再建支援事業費補助金、復興基金から出ておりますが、その土砂災害特別区域内の被災住宅再建支援事業補助金300万円の2件と書いてあって、これは県の補助100%ということですが、これはよくわかりますが、これは土砂災害特別区域内の方が区域外に住宅を再建されたものなのか。できましたら、例えばある程度の場所です、個人名は結構ですけれども、そこを教えていただければと思います。

○農業振興課長（藤野浩之君） お答えします。

まず、47ページの林道費の補修費ということで、説明書きがわかりにくくて申し訳ありませんでした。事業箇所につきましては、大字水越の赤松林道の支線になります。本線が災害復旧事業で工事中の間、支線のほうを代替道路として使用していました。その間、本線が工事が完了いたしましたので、今度は本線を通して支線の工事を、補修をやるということで今回の補正に上げております。

○学校教育課長（坂本朋子君） 65ページになります。学童施設の利用分ということで、電気料の増額をしている分についてです。

対象は御船小学校の学童クラブ、しいのみクラブになります。学校内の余裕教室を使っておりますので、今回発生した電気料金につきましては、大体の子メーターが付いておりませんので、ほかの2クラブの平均利用料との按分によって推計しております。同じ額を歳入の8ページに計上しております。

○建設課長（松岡秀明君） お答えします。

55ページの被災住宅再建支援事業補助金のことについてお答えします。これについては、今回の熊本地震に係ります罹災の半壊以上の判定といたしますか、罹災証明が出た方について、その方々が土砂災害の特別区域内、俗に言うレッドゾーンといたしますが、その区域内に住宅があって、それが被災したということで、それを、その住宅について、その土砂災害区域以外の地域に移転をされて住宅を建設される場合に1戸当たり300万円の補助助成をしますというものです。

これについては、地域名を申し上げますが、木倉の宗心原の地域になりますが、それと二丁目です。その2カ所、2件について今回助成をするというものであります。

○3番（岩永宏介君） 今の説明である程度わかったのですが、これは復興基金を使うのですか、が1点です。

それと、これの期限です。ほかにも該当者が、思い当たる方がいらっしゃいますので、こういう申請はいつまでできるのかです。そのあたりをお願いしたいと思います。

○建設課長（松岡秀明君） 確認をしまして、お答えをさせていただきます。

○3番（岩永宏介君） 期限あたりも確認、復興基金もです。はい。

それから、こういう例えば事業については、お知らせと申しますか、そういうのを知らせられたから、例えば宗心原では希望されたとか、二丁目あたりもそういうことになりますか。住民の方に周知することがあったのか、そのあたりを教えていただければと思います。一緒でもいいです。

○建設課長（松岡秀明君） このことについても、どういった手法で周知をしたのかについても、確認をさせていただきます。

○議長（田端幸治君） ほかに質疑はありませんか。

○11番（沖 徹信君） 歳出説明資料の31ページです。こども支援です。システム改修委託料とありますけれども、システムを改修したのは、保育士の処遇改善というか、そこら辺とはつながってないわけですか、これは。

○こども未来課長（野口壮一君） 今、沖議員が質問された内容と一緒になんですけど、この保育士の処遇改善に伴う子育てシステムの改修ということになります。国もこの保育士不足を解消するために、いわゆる保育士への手厚い処遇を行うということで、それを出す場合に、いろいろな計算式が中のほうにあります。これをシステム化したものを今回導入する委託料ということになります。

○11番（沖 徹信君） それでは、具体的に保育士の待遇がどういうふうに変ったのかということをお教えいただきたいんですけど。

○こども未来課長（野口壮一君） 具体的に国から、公立を除く私立保育園、認定こども園の保育士が対象となるものなんですけど、副主任保育士、専門リーダーを選任をしていただいて、園長、主任保育士等を除いた職員のおおむね3分の1の職員に、月額4万円の処遇改善を行う。また職務分別リーダーということで、保育士経験年数がおおむね3年以上の保

育士を、この分野別リーダーに上げて、月額5,000円の処遇改善を行おうという内容であります。

それから、国家公務員の人事院勧告を受けて、そのほかの保育士についても平均2%ぐらいの給与を、処遇を改善していくということになります。

今回補正予算で、このシステムの改修費用を上げているわけなんですけど、実際システムが入って計算をしてみないと、幾らぐらい上がるかというのがまだ今のところで確定な額というのは出ておりません。今回補正予算として計上していますが、来年3月の議会でこの処遇改善に係る分の、また私立保育園等に関する給付費の補正予算が生じてくるということになります。

○11番（沖 徹信君） 保育士の役職等を増やしてというか、そこら辺で給料が上がるということ、それから新規採用を含めて3年以内かな、そこら辺の人が2%ぐらい上がるということになると思うんですけども、今の説明では、そこら辺の給与の補償というか、それは全部国庫になるわけですか。それとも町も一部負担というのは発生するのですか。町・県、そこら辺の負担は発生するのでしょうか。その割合というのはどうなっていますか。

○こども未来課長（野口壮一君） 現在も私立・認定こども園に給付費等を上げているわけなんですけれども、この割合と一緒に、国が2分の1、県が4分の1、町が4分の1をそれぞれ負担することになります。

○11番（沖 徹信君） 今、夫婦共稼ぎ、そういう環境にあるわけなんです。そして、保育園にやらなければ夫婦共稼ぎはできないというのが、今の若い人たちの置かれる現状だと思います。そういうことで、御船町も人口を増やせと言うなら、待機児童相当が保育園に入園を希望したときは、100%通るということでやっていくためには、保育士の補充はもう絶対必要だと思います。その点で、こどもを預けて、親が安心して働ける御船町を作っていただきたいと思います。よろしく願いしておきます。

○建設課長（松岡秀明君） 先ほど岩永議員の質疑の件について、お答えをします。

これは復興基金による対応でありますけれども、100%の県補助ということで、期間としては、平成28年から平成38年までの10年間について対応ができるということになります。

これは広報みふねで周知をしているものでありますので、広報みふね等の御確認をいただければと思います。

○議長（田端幸治君） ほかに質疑はありませんか。

○建設課長（松岡秀明君） もう1点です。修正等の答弁をさせていただきます。

先ほど、福永議員から町営住宅の解体についての質疑がありましたが、今回35件の解体の予算化をしておりますが、これについては、今回の熊本地震によりまして、半壊以上の判定となった町営住宅のみの解体ということであります。老朽化が著しい町営住宅といたしますのは、あと38戸残っております。これについては、平成30年度以降に順次国の交付金を活用して解体を進めたいと考えておりますので、よろしく願いをいたします。

○議長（田端幸治君） 質疑はありませんか。

○7番（藤川博和君） 先ほど確認し損ねました。80ページの、最終的なシルバーとの契約は幾らになりましたか。委託料。

○学校教育課長（坂本朋子君） 時間単価910円です。

○7番（藤川博和君） シルバーというのは時間単価で契約ですか。年間契約が幾らではないですね。

○学校教育課長（坂本朋子君） 何しろスタートしたばかりでございますので、年間何時間必要なのかというのは、細かい数字は出せませんでしたので、もともとシルバー人材センターは時間の単価契約になります。

○議長（田端幸治君） ほかに質疑はありませんか。

○2番（森田優二君） 歳入の6ページ、ここに繰入金で、財政調整基金繰入金マイナスが出ております。これはマイナスだから、逆に基金へお金が入ったということではないのですか。大体どれぐらいになりますか。

○企画財政課長（坂本幸喜君） お答えします。

議員がおっしゃるとおりなんですけれど、実際今、財政調整基金の繰入金は、この議会補正前には4億7,300万円程度予算化しておりました。ところが今回1,600万円減額しますので、実際今年度、今のところ4億5,600万円ほど財政調整基金を予算化したということになって、今大体4億円ほど残っているという状態です。

○議長（田端幸治君） ほかに質疑はありませんか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○議長（田端幸治君） これで質疑を終わります。

討論を行います。討論はありませんか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○議長（田端幸治君） 討論なしと認めます。

これから、議案第51号、「平成29年度御船町一般会計補正予算（第5号）について」採決します。

お諮りします。

本件は、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者 起立]

○議長（田端幸治君） 起立多数です。したがって、本件は原案のとおり可決されました。

お諮りします。

ここで休憩を取りたいと思います。午後の再開につきましては、午後1時からお願いをします。

~~~~~ ○ ~~~~~

午前11時55分 休憩

午後 1時00分 再開

~~~~~ ○ ~~~~~

○議長（田端幸治君） 休憩前に引き続き、会議を再開します。

~~~~~ ○ ~~~~~

日程第2 議案第52号 平成29年度御船町国民健康保険事業特別会計補正予算（第3号）
について

○議長（田端幸治君） 日程第2、議案第52号、「平成29年度御船町国民健康保険事業特別会計補正予算（第3号）について」を議題とします。

質疑を行います。質疑はありますか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○議長（田端幸治君） 質疑なしと認めます。

討論を行います。討論はありますか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○議長（田端幸治君） 討論なしと認めます。

これから、議案第52号、「平成29年度御船町国民健康保険事業特別会計補正予算（第3号）について」を採決します。

お諮りします。

本件は、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者 起立]

○議長（田端幸治君） 起立多数です。したがって、本件は原案のとおり可決されました。

~~~~~ ○ ~~~~~

日程第3 議案第53号 平成29年度御船町介護保険事業特別会計補正予算（第3号）について

○議長（田端幸治君） 日程第3、議案第53号、「平成29年度御船町介護保険事業特別会計補正予算（第3号）について」を議題とします。

質疑を行います。質疑はありませんか。

「ありません」と呼ぶ者あり]

○議長（田端幸治君） 質疑なしと認めます。

討論を行います。討論はありませんか。

「ありません」と呼ぶ者あり]

○議長（田端幸治君） 討論なしと認めます。

これから、議案第53号、「平成29年度御船町介護保険事業特別会計補正予算（第3号）について」を採決します。

お諮りします。

本件は、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者 起立]

○議長（田端幸治君） 起立多数です。したがって、本件は原案のとおり可決されました。

~~~~~ ○ ~~~~~

日程第4 議案第54号 平成29年度御船町後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第2号）について

○議長（田端幸治君） 日程第4、議案第54号、「平成29年度御船町後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第2号）について」を議題とします。

質疑を行います。質疑はありませんか。

「ありません」と呼ぶ者あり]

○議長（田端幸治君） 質疑なしと認めます。

討論を行います。討論はありませんか。

[「ありません」と呼ぶ者あり]

○議長（田端幸治君） 討論なしと認めます。

これから、議案第54号、「平成29年度御船町後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第2号）について」を採決します。

お諮りします。

本件は、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者 起立]

○議長（田端幸治君） 起立多数です。したがって、本件は原案のとおり可決されました。

~~~~~ ○ ~~~~~

日程第5 議案第55号 平成29年度御船町緑の村運営事業特別会計補正予算（第3号）について

○議長（田端幸治君） 日程第5、議案第55号、「平成29年度御船町緑の村運営事業特別会計補正予算（第3号）について」を議題とします。

質疑を行います。質疑はありますか。

[「ありません」と呼ぶ者あり]

○議長（田端幸治君） 質疑なしと認めます。

討論を行います。討論はありますか。

[「ありません」と呼ぶ者あり]

○議長（田端幸治君） 討論なしと認めます。

これから、議案第55号、「平成29年度御船町緑の村運営事業特別会計補正予算（第3号）について」を採決します。

お諮りします。

本件は、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者 起立]

○議長（田端幸治君） 起立多数です。したがって、本件は原案のとおり可決されました。

~~~~~ ○ ~~~~~

日程第6 議案第56号 平成29年度御船町公共下水道事業特別会計補正予算（第2号）について

○議長（田端幸治君） 日程第6、議案第56号、「平成29年度御船町公共下水道事業特別会計補

正予算（第2号）について」を議題とします。

質疑を行います。質疑はありますか。

[「ありません」と呼ぶ者あり]

○議長（田端幸治君） 質疑なしと認めます。

討論を行います。討論はありますか。

[「ありません」と呼ぶ者あり]

○議長（田端幸治君） 討論なしと認めます。

これから、議案第56号、「平成29年度御船町公共下水道事業特別会計補正予算（第2号）について」を採決します。

お諮りします。

本件は、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者 起立]

○議長（田端幸治君） 起立多数です。したがって、本件は原案のとおり可決されました。

~~~~~ ○ ~~~~~

日程第7 議案第57号 平成29年度御船町情報通信基盤施設運営事業特別会計補正予算
（第2号）について

○議長（田端幸治君） 日程第7、議案第57号、「平成29年度御船町情報通信基盤施設運営事業特別会計補正予算（第2号）について」を議題とします。

質疑を行います。質疑はありますか。

○5番（福永 啓君） 説明書の110ページから111ページです。ここでは、多くが熊本地震に伴う工事請負費というものが含まれていると思います。結局今回を含め、熊本地震に係る情報通信特会です、災害復旧費関連は総額幾らになったんでしょうか。

○総務課長（吉本敏治君） お答えします。

まず、災害復旧事業の総額ですけれど、平成28年に熊本地震が発生しましたので、28年分からの合計額でいきますと、約1,830万円ほどになります。かつ、そのうち平成29年度分として約600万円ほどですから、平成28年度分としての合計が1,230万円ほどという試算になっております。

○5番（福永 啓君） この災害復旧費なんですけど、例えば、さっきほんのちょっと御説明がございました。保険で若干入ってくる可能性がある。そのほか、これは最終的には起債

等で賄わざるを得ないと思うんですが、それに対して交付税の措置とか一般交付税の根拠とか、何かほかのその他補助金とか、そういうのはございますか。

○総務課長（吉本敏治君） 午前中の一般会計の審議の中でも少し申し上げましたけれども、保険には加入しておりますので、その分については、先ほど申しましたように被害額の15%程度は見舞金として支給されることになっておりますけれども、それ以外の特定財源、補助金や起債等です。こういったものについては基本的にはありません。

あと、交付税については、私もよく交付税の中身までは存じ上げてないんですけれども、多分交付税に対する措置もなかったと思います。交付税としての措置もなかったものと思っております。

○5番（福永 啓君） としますと、大体この1,800万円のうち200数十万円ぐらいが保険として賄われ、あとは全く純粹に町の一般の持ち出しになると考えてよろしいんですか。

○総務課長（吉本敏治君） はい、その関係もありまして、今基金も取り崩して使用しておりますし、今回一般会計からの繰り入れによって賄うということになります。

○5番（福永 啓君） その金額なんですけど、たびたび話題に上がっておりますとおり、ここに人件費等が含まれていないと、果たして本当に特別会計上、どれだけ足らなくて、今からどうしなければいけないのかというが見えにくいと私は思うんです。

ちなみに、ここに人件費を繰り入れた場合、繰り入れない場合、最終的に町の会計は全く一緒だと思うんです。これをどちらかにしたことによって、何か財政的にどちらが有利、不利というのはございますか。

○総務課長（吉本敏治君） 特別会計において人件費を措置した場合、それから一般会計において措置した場合、トータルでは変わりありません。

○5番（福永 啓君） 私もそのように理解しております。特別会計の条例上なんですけど、これはこの特別会計の条例がございまして、それを読みますと、御船町情報通信基盤整備の円滑な運営とその経理の適正を図るため、この特別会計を設置する。そして、この会計において加入者負担、貸付負担、一般会計繰入金及びその他の収入をもって歳入とし、一般管理費、委託料及びその他の諸支出をもって歳出とするとなっています。

特別会計は、普通地方公共団体が特定の事業を行う場合に、その他の特定の歳入をもって特定の歳出に充て、一般の歳入歳出と区分して経理する必要がある場合に設置できると、これは法律上定められております。

一般管理費です、そして実際にかかって、ほかのところでは一般管理費として計上されている人件費です。これがやはり含まれていないのは、これはこの条例の趣旨及び特別会計設置の趣旨上も、おかしいんじゃないかなと感じるのですが、そのあたりはどのように理解すればよろしいでしょうか。

○総務課長（吉本敏治君） ただ今の福永議員の質疑についても、午前中も少し触れましたけれども、法令上定められている人数を配置しなければならないというものは、一般管理部門の中については、ほとんどありません。ですので、あとはその執行機関の裁量によって、条例というのは職員定数条例です、これはすべての職員の定数の条例の上限を定めているわけですが、その中で必要な事務分担に基づいて人員を配置すると。そして、その定員の適正化を図っていくという趣旨でありますので。

その中で、特別会計だから必ずしも人員を配置しなければならないというものではないと思っております。もちろん似たような関係で緑の村等には人員を配置しているわけですが、それも職務の分担に応じて一般会計で1年間分ではなくて数箇月分、そして緑の村の特別会計で数箇月分と、そういう規定もしているわけです。

情報特別会計につきましては、これまでの年間の総予算が約5,000万円強ぐらいでした。一般会計における電算の経費が、平成29年度でいいますと7,000万円ぐらいあります。ウエイトとしては一般会計が若干多いわけです。これを仮に特別会計で人員を1人、2人配置したとしても、一般会計にも携わってもらわないと、先ほどの条例定数で賄っていくためにはそういった措置も必要ということになりますので、今回はいずれかの会計に、情報特別会計の場合には置いていないと、一般会計に置いて兼務をさせているという状況であるということには、これは発足以来変わりはないということになろうかと思えます。

○5番（福永 啓君） 決して私は違法ではないと思っています。ただ実際に、先ほど御説明もありましたとおり、一般管理として実際に人がこれについているんです。ですから、それを今ゼロで上がっているんです。やはりこれは、違法ではないけどわかりにくいと思います。どちらに上げて、これは町の財政的にはあまり変わらないと思うんです。結局一緒なんです。結局一緒であるならば、やはりわかりやすいほうが議員にとっても町にとってもいいかなと思いましたので、ぜひ、これはたびたび指摘がありまして、今後検討するという返答もありましたので、これについてはまた御検討いただきたいと思えます。

○議長（田端幸治君） ほかに質疑はありませんか。

○11番（沖 徹信君） この事業は、始めるときに1,500戸程度の加入があれば毎年1,000万円の積み立てができるというのが、最初の説明だったと思いますけれども、それに間違いないでしょうか。

○総務課長（吉本敏治君） この情報特別会計を設置して特別会計で運営するという時点で、まず光ケーブルを設置し、平成23年度からの運用だったと思いますけれども、当時1,600名を恐らく目指していたと思います。1,600戸の加入があれば、先ほどおっしゃったような会計の運営ができるのではないかという予想であったと認識しております。

○11番（沖 徹信君） そういう形で運営した中で、今年度は一般会計から補充しなくては、もう積み立てがゼロになったから補充して繰り入れなければならなくなったわけですね。その説明をお願いします。地震前から積み立ては順調には伸びてないでしょう。地震が言い訳にはならないと思いますけれど。

○総務課長（吉本敏治君） これまで毎年仮に1,000万円積み立てられたとすればそういう話になるかと思えます。今回は、当然平成28年度に地震が起きまして、その影響というのはかなり大きかったとは思っております。

それと、では地震がなかった場合にどうかということは、これは地震がなければこの費用も必要ではないということになりますので、何とも言えないところがあります。地震がなかったら、この歳出で計上している費用、地震の復帰に伴う費用というのはもちろん計上する必要はありませんし、また通常のこの特別会計に関するものであれば、負担金等も入ってくるということになりますし、地震の分については条例の改正も行っておりますので、減免措置を行っているということになります。どの部分がいくらだけ減少したかというところまではまだ精査しておりません。

そういうところであります。

○11番（沖 徹信君） 私が聞きたいのは、平成23年度から開始しているわけです。5年間やった後に地震が来ているわけです。そういう中で、うたい文句の1,000万円あれば5,000万円は積み立てているはずでしょう。違いますか。そこを言いよるわけです。それができなかったということ。

それで、今度地震があったから経費が非常に嵩んで、一般会計から持ち出しをしなくてはならないようになったということです。それはわかりますよ。そういう中で、この事業をどういうふうに今後運営していくつもりなのか。

○総務課長（吉本敏治君） 今後の運営について申しますと、実は今年の1月ぐらいだったと思います。町長も含めて、今後のこの特別会計の運営について話しております。その中で、できれば今の財産として、まだ、平成23、24、25、26、27、28、29年ですので7年目ということになるかと思えます。できるだけ新しいうちに、財産価値のあるうちに売却も含めて、考えていきたいという話をしました。

しかし、交付金として国の補助金を受けておりますので、当然、返還の義務も出てくるということになります。途中で売却をするということになればです。ですから、そういったことを、どういうふうに持っていくかということについては、まず交付金をどのくらい、仮に今現在、来年度から仮にやめるとした場合、どのくらいの交付金を返さなければならぬのか、そういうこともまだ一度も確かめておりませんので、年明けには総務省の総合通信局に行って、そういった話をしていきたいとは思っています。まずは、そういった話を聞いた上で、また持ち帰って町長を含めて協議を行っていききたいと今考えているところです。

○11番（沖 徹信君） 1月そういう話が出たなら、もう今は12月ですよ。12カ月とは言わなくても11カ月何していたんですか。そういう甘さがあるけん深入りばかりするわけでしょうが。今からずっと一般会計で繰り入れていくわけですから、そこら辺の甘さというのは、どう考えられますか。

○総務課長（吉本敏治君） 今これは、この事業については公設民営で行っております。当然今後は民間事業者も含めての話をしていかなければなりません。まずは、総務省に行って協議をした上で、返還金額とか、そういったものが現時点でどのくらいになるのか。そしてまた、ゼロになるのはいつ頃になるのか。返さなくてもいいとなるのはいつ頃になるのか。基本的には10年間は、10年間の間に処分をすれば、そういった交付金の返還が伴ってくるものと思っておりますけれども、その後の状況も踏まえた上で、また協議を行っていききたいと思っております。

○11番（沖 徹信君） 同じことを何度も言いますが、そういう検討をやりましょうという話が出たら、今の情報がどういう経営状態なのだという、その分析をすぐ始めるべきではないですか。今からって、もう約1年、ただ野ざらしにしとったということでしょう。

○総務課長（吉本敏治君） 確かにおっしゃるとおり、最初の協議、確認からもう1年近くが経ってしまっているということは事実ですけれども、いずれにしても10年まだ経っておりませんので、そこら辺の話をもうちょっと具体的に煮詰めた上で進めていきたいと。確か

に遅くなったとは私も感じておりますけれども、今後はより具体的に煮詰めていきたいとは思っているところです。

○11番（沖 徹信君） 10年経ったら、そういう問題ではないわけです。今したらどうなるということをしとかなないと、民間会社だったら潰れるか生きるかという瀬戸際ですよ。おたくたちは公務員だからと潰れる、どういふことをしても責任は最終的には逃れられると、その経営の甘さじゃないですか。もうちょっと真剣にやってくださいよ。

○議長（田端幸治君） ほかに質疑はありませんか。

○2番（森田優二君） 確認ですけれども、情報通信は公設民営ですか。

○総務課長（吉本敏治君） 基本的には公で設置をしまして、運営はQ T ネットをお願いをしているという状況です。財産を貸し付けて、その貸し付けた分の収入を町がいただいているということで、町としては運営をしております。

○2番（森田優二君） ということは、設置は役場でした。運営は民間に任せるということでよかったですか。

○総務課長（吉本敏治君） 任せているという部分は、まず、その会社と協定書を結んでおります、町として。保守管理、御船町地域情報通信基盤整備事業伝送路等に関する保守管理業務委託契約書、この中で、町が管理すべき部分と、それから委託会社、管理会社で管理していただく部分ということ、基本的には定めております。それに伴って、町の役割と業者の役割ということを分けながら行っているということになります。

○2番（森田優二君） 私が確認したかったのは、要するに申し込みは役場で受け付けするんでしょう。そして、工事を発注するということでしょう。だから、厳密には民営のところが出てくるかもしれませんが、こういうのは公設公営と見ていくほうがいいのじゃないですか。やはり人件費が入ってないとか何とかいうのも、そういうところから私たちは言っているんですよ。受け付けをして、そして最終的には民営の場合は1週間、2週間で工事に入るわけですけれども、一番初めは2カ月かかったじゃどうだこうだという話の中で、今はそんなにかからないと思うんですけれども、やはり民営だったらそういったところは早いんです。

今、課長から堂々と公設民営という話が出たら確認したんですけれども。やはりそこはもうちょっときちんと今後は話をするべきはしてください。よろしくお願いします。

○議長（田端幸治君） ほかに質疑はありませんか。

[「ありません」と呼ぶ者あり]

○議長（田端幸治君） 質疑なしと認めます。

討論を行います。討論はありませんか。

[「ありません」と呼ぶ者あり]

○議長（田端幸治君） 討論なしと認めます。

これから、議案第57号、「平成29年度御船町情報通信基盤施設運営事業特別会計補正予算（第2号）について」を採決します。

お諮りします。

本件は、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者 起立]

○議長（田端幸治君） 起立多数です。したがって、本件は原案のとおり可決されました。

~~~~~ ○ ~~~~~

日程第8 議案第58号 平成29年度御船町水道事業会計補正予算（第3号）について

○議長（田端幸治君） 日程第8、議案第58号、「平成29年度御船町水道事業会計補正予算（第3号）について」を議題とします。

質疑を行います。質疑はありませんか。

[「ありません」と呼ぶ者あり]

○議長（田端幸治君） 質疑なしと認めます。

討論を行います。討論はありませんか。

[「ありません」と呼ぶ者あり]

○議長（田端幸治君） 討論なしと認めます。

これから、議案第58号、「平成29年度御船町水道事業会計補正予算（第3号）について」を採決します。

お諮りします。

本件は、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者 起立]

○議長（田端幸治君） 起立多数です。したがって、本件は原案のとおり可決されました。

~~~~~ ○ ~~~~~

日程第9 請願第1号 平成28年熊本地震に伴う御船町公民館上野分館の移設について

○議長（田端幸治君） 日程第9、請願第1号、請願書、「平成28年熊本地震に伴う御船町公民館上野分館の移設について」を議題とします。

藤川総務文教常任委員長の報告を求めます。

○総務文教常任委員長（藤川博和君） 請願第1号、平成28年熊本地震に伴う御船町公民館上野分館移設についての審査報告。総務文教常任委員長の報告をいたします。

請願第1号について。平成29年12月14日、午後1時より委員会室において総務文教常任委員7名、紹介議員1名、執行部から社会教育課長、総務課長、企画財政課長、計3名が出席し事前調査を行いました。

請願第1号、社会教育課長から現状についての説明、また紹介議員より請願内容の説明を受けました。その後、現上野分館と移設希望のJA旧上野支所現地調査を実施し、上野分館長及び上野地区囑託理事の出席をいただき、説明を受け、事務局より請願内容の朗読の後、各委員からの意見を求めました。

意見。分館は校区の集会場である。早急に設置する必要がある。平成27年上野分館は損傷が激しく、町としても新築の方向であったと聞いているが、その後現時点までの経過の説明を受けた。上野分館が現在使用できず、現在は旧JA上野支所と賃貸契約を結んでいるが、賃貸料は幾らなのか。また、耐震などの確認はしているのか。JAの意向はどうか。またJA次第では購入、また新しく公民館を建設する場合、補助事業などは該当するのか。財政的に提示していただく必要がある。

以上の意見を踏まえ、詳細な調査が必要となり時間を要することから、全会一致で継続審査とすることに決しました。本議会においても委員長の報告どおり御承認いただきますようお願い申し上げます。

委員長の報告を終わります。

○議長（田端幸治君） 質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○議長（田端幸治君） 質疑なしと認めます。

藤川総務文教常任委員長、自席へ。

討論を行います。討論はありませんか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○議長（田端幸治君） 討論なしと認めます。

これから、請願第1号、請願書、「平成28年熊本地震に伴う御船町公民館上野分館の移設について」を採決します。

本件に対する委員長の報告は継続審査です。本件は委員長報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者 起立]

○議長（田端幸治君） 起立多数です。よって本件は、委員長報告のとおり継続審査と決定されました。

~~~~~ ○ ~~~~~

日程第10 陳情第9号 陳情書について

○議長（田端幸治君） 日程第10、陳情第9号、「陳情書について」を議題とします。

福永産業厚生副常任委員長の代理報告を求めます。

○産業厚生常任副委員長（福永 啓君） 陳情第9号、町道等、今後の管理方法の見直しの陳情書について、審査報告をいたします。

塚本委員長の指名により副委員長が代理報告いたします。

陳情第9号、町道等、今後の管理方法の見直しの陳情書について。平成29年12月14日、午後1時より審議会室において、産業厚生常任委員7名、執行部から松岡建設課長、兼田維持管理係長、藤野農業振興課長、井上農林企画係長の4名が出席し、兼田維持管理係長を書記に指名し審議を行いました。

はじめに陳情第9号の陳情書の朗読と、執行部から現状の説明を受け、その後現地調査を行いました。現地では、浅ノ藪、米田区長ほか2名の役員により現地案内を受け調査、その後に浅ノ藪公民館において、陳情者から現状及び陳情の趣旨を聞きました。現在区として、町道管理が5カ所の総延長15.5キロメートルを年に3回実施され、今後に及んでは高齢化も進み、非常に管理困難な状況であることを確認しました。

また、旧上田代・浅ノ藪線については、化石発掘広場や天ヶ瀬町有林（72ヘクタール）の管理道路でもあり、将来の道路管理をどのように位置付けるのか提案されました。

現地確認の後、再度審議会室において各委員より意見を求めました。出ました意見として、御船町道路管理報償金交付事業に基づき、他の嘱託区と比較しても、今回陳情された浅ノ藪区の町道管理は、総延長が15.5キロメートルと突出しており、改善の必要がある。将来にわたり、町道の位置付けも検討の余地がある。

平成29年12月18日の午後5時より委員会室において2回目の委員会を開催し、各委員から再度意見を求めました。2回の審議を踏まえ、陳情第9号、町道等今後の管理方法の見直しの陳情書について、採決をとりました結果、全会一致により陳情項目を認め、次の3つの意見を付して採択することに決しました。

1、陳情項目1の町道管理については、平成30年に予算措置を含め、除草作業等維持管理を地元（嘱託区）と協議の上、町が行うこと。

2、陳情項目2の町道については、町が管理を行うこと。また、町の財産である天ヶ瀬町有林の管理、また将来の利用度合いや町道の適切な管理の観点から、林道への移行を含め、総合的な検討を行うこと。

3、町内の町道の管理については、高齢化や人口減少が急速に進んでいる現状を踏まえて、道路管理報償金交付事業等の見直しを含め、将来的に維持可能かつ財政的に有利な制度設計（事業）を進めること。

本議会においても委員長の報告どおり採択いただきますよう、お願い申し上げます、委員長報告を終わります。

○議長（田端幸治君） 質疑を行います。質疑はありますか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○議長（田端幸治君） 質疑なしと認めます。

福永副委員長、自席へどうぞ。

討論を行います。討論はありますか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○議長（田端幸治君） 討論なしと認めます。

これから、陳情第9号、「陳情書について」を採決します。

本件に対する委員長の報告は陳情項目を認め、意見を付した上で採択です。

本件は、委員長報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者 起立〕

○議長（田端幸治君） 起立多数です。よって本件は、委員長報告のとおり陳情項目を認め、意見を付した上での採択と決定されました。

お諮りします。

追加日程第1、道路事業予算の総額確保等に関する意見書の提出についての件、追加日

程第2、田上忍町議会議員への議員辞職勧告に関する決議についての件、2件が提出されました。

これを日程に追加し、議題とすることに異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（田端幸治君） 異議なしと認めます。

よって、2件を追加し、議題とすることに決定しました。

追加日程を配布させます。

[追加日程 配布]

~~~~~ ○ ~~~~~

追加日程第1 発議第4号 道路事業予算の総額確保等に関する意見書の提出について

○議長（田端幸治君） 追加日程第1、発議第4号、「道路事業予算の総額確保等に関する意見書の提出について」を議題とします。

提出者から、趣旨説明を求めます。

○8番（池田浩二君） 発議第4号、道路事業予算の総額確保等に関する意見書の提出について。

次の議案を御船町議会会議規則（平成6年規則第1号）第14条の規定により別紙のとおり提出する。

平成29年12月19日提出。

提出者、御船町議会議員、池田浩二。

賛成者、御船町議会議員、藤川博和。

賛成者、御船町議会議員、塚本勝紀。

賛成者、御船町議会議員、清水 蕙。

賛成者、御船町議会議員、福永 啓。

提案理由。道路事業予算の総額確保等に関する意見書を、地方自治法第99条の規定により提出する。これが、この議案を提出する理由である。

道路事業の総額確保等に関する意見書（案）。

御船町は、熊本県の中心都市熊本市の南東に位置し、九州縦貫自動車道や九州中央自動車道を介し、九州各県へのアクセス性に富み、熊本都市圏の都市機能と自然豊かさの調和のあるまちづくりを目指しているが、移動手段を自動車交通に大きく依存している本町に

においては、最も基礎的な社会資本である道路の整備を進めることが、町民生活の経済・社会活動を支える上で重要である。

また、今後、少子高齢化の進展と本格的な人口減少の到来など、地方を取り巻く社会情勢が大きく変化していく中で、住民の安心・安全を確保し、町が持続的な発展を続け、「地方創生」を実現するためには、平坦地においては都市計画道路の整備や、山間部においては町道北園有水線をはじめとする主要町道の整備を着実に推進し、また既存道路施設の長寿命化を図る必要がある。

このため、国におかれては、必要な道路を計画的に整備し、国民の安心・安全を確保するために必要な道路事業予算の総額を安定的かつ十分に確保するとともに、(地方創生の早期実現を図るため、) 大型補正予算の編成を早急に検討するよう強く要望する。

併せて、「道路整備事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律」(以下「道路財特法」という。)の規定により、交付金事業の補助率等が嵩上げされている措置については、平成29年度までの時限措置となっており、このままでは、自主財源の乏しい地方自治体にとって致命的な問題となる。

よって、国におかれては、道路財特法の補助率等の嵩上げ措置については、平成30年度以降も引き続き継続するよう強く要望するとともに、地域の財政状況等を考慮した措置を取られるよう要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成29年12月、熊本県上益城郡御船町議会議長、田端幸治。

衆議院議長、大島理森様。

参議院議長、伊達忠一様。

内閣総理大臣、安倍晋三様。

財務大臣、麻生太郎様。

国土交通大臣、石井啓一様。

○議長(田端幸治君) 質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○議長(田端幸治君) 質疑なしと認めます。

池田議員、自席へどうぞ。

討論を行います。討論はありませんか。

[「ありません」と呼ぶ者あり]

○議長（田端幸治君） 討論なしと認めます。

これから、発議第4号、「道路事業予算の総額確保等に関する意見書の提出について」を採決します。

本件は、原案のとおり提出することに賛成の方は起立願います。

[賛成者 起立]

○議長（田端幸治君） 起立多数です。よって本件は、原案のとおり提出することに決定されました。

~~~~~ ○ ~~~~~

追加日程第2 発議第5号 田上忍町議会議員への議員辞職勧告に関する決議について

○議長（田端幸治君） 追加日程第2、発議第5号、「田上忍町議会議員への議員辞職勧告に関する決議について」を議題にします。

ここで、地方自治法第117条の規定によって、6番、田上忍議員の退場を求めますので、議員控室で待機してください。

[田上忍議員 退場]

○議長（田端幸治君） 6番、田上忍議員が退場いたしました。

提出者から、趣旨説明を求めます。

○2番（森田優二君） 発議第5号、田上忍町議会議員への議員辞職勧告に関する決議。

標記の議案を御船町議会会議規則第14条の規定により別紙のとおり提出する。

平成29年12月19日提出。

提出者、御船町議会議員、森田優二。

賛成者、御船町議会議員、清水 蕙。

賛成者、御船町議会議員、岩田重成。

賛成者、御船町議会議員、井本昭光。

賛成者、御船町議会議員、沖 徹信。

賛成者、御船町議会議員、田中隆敏。

賛成者、御船町議会議員、塚本勝紀。

賛成者、御船町議会議員、池田浩二。

賛成者、御船町議会議員、藤川博和。

賛成者、御船町議会議員、福永 啓。

賛成者、御船町議会議員、中城峯視。

賛成者、御船町議会議員、岩永宏介。

提案理由。田上忍議員の請求者に対する勤務先へ架電をした行為は、町全体の代表者である議員としての品位と名誉を損なう行為であり、議員辞職に値する。これが、この議案を提出する理由である。

田上忍議員に対する議員辞職勧告決議（案）。

田上忍町議会議員は、個人のブログにおいて独自の義援金の募集を行った。

この行為及び集められた義援金の使途に対して、平成29年6月1日付けの御船町政治倫理審査会調査結果回答書において、田上議員の行為が御船町政治倫理に抵触することが確定（認定）され、加えて、政治倫理（資金）規正法及び公職選挙法の法律に抵触する恐れがあることを指摘された。御船町議会としても、田上議員に対して、御船町議会議員を辞職するよう勧告したところである。

この辞職勧告の発端ともなった、御船町議会議員政治倫理条例に基づいた調査請求について、田上議員が調査請求者に対して、勤務先等へ架電し、「営業妨害と名誉毀損」と受け取られかねない行為に及んだとして、御船町政治倫理条例に基づく調査請求がなされ、平成29年7月20日付けで御船町政治倫理審査会より答申された調査回答書により、田上議員の行為が御船町政治倫理条例3条1項1号及び、2項に抵触する旨認定された。

この調査回答書を受け、御船町議会として、数回にわたり田上議員に対し全員協議会において事実確認及び釈明の機会を設けたが、合理的な釈明はなかった。

町民の請求行為に対して、議員の職にあるものが、間接的な圧力行為あるいは報復行為と取られる行為を行うことなどは、町民全体の代表者である議員としての品位と名誉を損なう行為であり、決してあってはならない。

かつ、町政が町民の厳粛な信託によるものであることを認識して、町政への信頼に応え、公正で開かれた民主的な町政の発展に寄与することを目的として議会が制定した条例に謳われた責務を自ら放棄し、むしろ、積極的に条例に基づく調査請求権の行使自体を阻害する行為に出たものとして、議員の職務に関して不正の疑惑を持たれる恐れがあることが明白である。

については、議会の名誉と品位を守り、町民の信頼回復を図るため、御船町議会は当該議

員に対して、御船町議会議員を辞職するよう再度勧告する。

以上決議する。

平成29年12月19日。

御船町議会。

○議長（田端幸治君） 質疑を行います。質疑はありますか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○議長（田端幸治君） これをもって、質疑を終わります。

森田議員、自席へどうぞ。

討論を行います。討論はありますか。

まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○議長（田端幸治君） 次に、原案に賛成者の発言を許します。

○5番（福永 啓君） 田上忍議員が個人名で義援金を集めた事実や、その不明朗な用途などに対して、御船町政治倫理審査会は政治倫理条例違反を認定するとともに、法律違反の疑いを指摘しました。このことについて、御船町議会として、田上議員に対し複数回説明を求めましたが、政治倫理審査会の回答書で認定された事実関係や結論を覆すような根拠の提出も、納得のいく説明もありませんでした。私一議員としても、また御船町議会としても、政治倫理審査会の結論を認めざるを得ません。

御船町議会は、この事実を特に厳粛に受け止め、9月議会で田上議員に対し、全会一致で議員辞職するよう勧告しました。私が知る限り、御船町議会始まって以来、議員辞職勧告決議案全会一致で可決という結果に至ったのは、条例違反が認定され、法令違反の疑いが指摘され、さらには御船町政治倫理条例に定められた、議員は自ら潔い態度をもって疑惑の解明に当たるとともに、その責任を明らかにしなければならないという重大な責務をも果たさなかった結果だと思えます。

田上議員は、このような辞職勧告決議案を厳粛に受け止めるとともに、辞職勧告決議に至る理由となった自らの行為に対しても深く反省すべきです。しかし、田上議員は議員辞職勧告決議案可決後も、議会に対しても、辞職勧告に至る理由ともなった政治倫理審査会に審査請求を出した一町民に対しても反省の意を示すことはありませんでした。それどころか、平成29年7月20日付けの政治倫理審査会調査回答書において、政治倫理審査会に審

査請求を出した一町民の職場や関係先に間接的な圧力もしくは報復対応といわざるを得ない電話をし、またその経過を自らのフェイスブックに記載していたなどで指摘され、また再び御船町政治倫理条例に抵触すると認定されたのです。

御船町議会として、田上議員に対して説明を求めましたが、勤務先や関係先に電話した事実やフェイスブックに記載した内容については認めたものの、矛盾する説明を何の根拠も示さず繰り返すのみで、謝罪もありませんでした。弁護士等法律の専門家も交えた第三者機関である政治倫理審査会の厳粛かつ大変厳しい指摘に対して、田上議員の言い訳は、一議員である私が聞いても、いや一般社会通念上も全く信頼できないものであると言わざるを得ません。

政治倫理条例は公正で開かれた民主的な町政の発展に寄与することを目的として議会が制定したものです。政治倫理審査会の回答書及び今回提案された議会議員辞職勧告決議案にもあるとおり、田上議員の行為は、その条例に謳われた責務を自ら放棄するのみならず、逆に田上議員自らが、その条例に基づく調査請求権の行使自体を積極的に阻害する行為に出たものといえます。

このようなことは議員として、いや社会人として決してあってはならない行為です。議会の品位と名誉を守るため、また議員としての教示からも、再び提出された田上忍議員に対する議員辞職勧告決議案に対し、賛成します。

○議長（田端幸治君） 次に、原案に反対者の発言を許します。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○議長（田端幸治君） 次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○議長（田端幸治君） これで討論を打ち切ります。

これから、発議第5号、「田上忍町議会議員への議員辞職勧告に関する決議について」を採決します。

本件は、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者 起立〕

○議長（田端幸治君） 起立多数です。したがって、本件は原案のとおり可決されました。

6番、田上忍議員の除斥を解きます。

〔田上忍議員 入場〕

○議長（田端幸治君） 6番、田上忍議員に申し上げます。

発議第5号、「田上忍町議会議員への議員辞職勧告に関する決議について」は可決されましたので、御報告をいたします。

これで、平成29年度第8回御船町議会定例会12月会議の議事日程はすべて終了しました。お諮りします。

本定例会は、この後再開する定例会まで休会にしたいと思います。

これに異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（田端幸治君） 異議なしと認めます。

よって、次回再開する定例会まで休会にします。

これをもちまして、平成29年度第8回御船町議会定例会12月会議を終了します。

~~~~~ ○ ~~~~~

午後1時57分 休 会

地方自治法第123条の規定によりここに署名する。

御船町議会議長

御船町議会議員

御船町議会議員